

平成17年度東北学院大学ヨーロッパ文化研究所シンポジウム（社会経済史学会東北部会共催）

# 「アジア世界における 大英帝国と大日本帝国」

## 日時

平成17年12月17日(土)

13時～17時30分

## 場所

東北学院大学 土樋キャンパス

押川記念ホール（8号館5階）

一般公開：無料

## 問題提起

渡辺昭一氏

（東北学院大学文学部教授）

## 報告者

山室信一氏

（京都大学人文科学研究所教授）

「国際環境の変化と国民帝国・日本の対応」

秋田茂氏

（大阪大学大学院文学研究科教授）

「1930年代のイギリスの非公式帝国と東アジア世界」

河西晃祐氏

（東北学院大学文学部講師）

「1930年代「帝国秩序」の再編成と「大東亜共栄圏」構想」

## コメンテーター

岩本由輝氏

（東北学院大学経済学部教授）

「日本近現代史の立場から」

関内隆氏

（東北大学高等教育開発推進センター教授）

「ヨーロッパ近現代史の立場から」

お問い合わせ先

東北学院大学  
ヨーロッパ文化研究所

TEL 022-264-6379

※駐車場がございませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください。



## 《概要》

21世紀に突入してはや数年が経ち、「20世紀の世界とはいかなる時代であったのか？」という大テーマに向き合い検証する時代になりました。20世紀的世界は、二度の世界大戦と冷戦構造の成立・発展・崩壊、そしてその後のアメリカの単独支配という事態を生み出しましたが、三度の世界大戦に挟まれたおよそ30年間に、戦後体制を生んださまざまな問題をはらんでいたと考えられます。国際秩序の再編に向けて国際連盟という初めての国際組織が生み出され、かつアジア世界におけるアメリカ主導のワシントン体制が構築された中で、帝国の存続を模索したヨーロッパ諸国と帝国としての膨張をめざした日本、アジア・ナショナリズムの激化、アメリカのアジアへの伸張というように複雑な諸要因が新たな国際関係を生み出していたと思われます。

シンポジウムでは、帝国支配の中心にいた大英帝国と帝国支配をめざした新興帝国日本（大日本帝国）を比較の視座に置き、アジアにおいて両帝国がいかなる帝国の維持・拡大をはかったのか？両帝国の関係はいかなるものであったのか？両帝国の特徴はどこにあったのか？などについて考えます。